独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center　第97号

発行日　令和６年１月
発行人　新木　一弘
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
https://tokyo-mc.hosp.go.jp

基本理念　東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。

病院から望む富士

主任放射線技師　**宮下　慎也**

年頭のご挨拶

院長　**新木　一弘**

明けましておめでとうございます。皆さまには清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の干支は甲辰（きのえ・たつ）、甲は木の芽が出て、勢いを増し、立派な木になること、辰は成長し盛んになる、めでたいことを表し、この二つをあわせて、種が芽を出し、成長し、成功する良い年になるという意味だそうです。皆さまとともに、新型コロナ感染症が蔓延する苦しみを乗り越え、明るい一年になることを祈念しております。

さて、国立病院機構東京医療センターは1942年に設立された海軍軍医学校附属第二病院を起源とし、これまで地域の皆さまに高度・急性期医療をお届けすべく努力してきました。

昨年は蔓延する新型コロナ感染症に対し、院内に専用病棟や発熱外来を設けて診療に当たるとともに、当院の医師・看護師・薬剤師等をコロナ診療援助のため他院に派遣するなど、最重症患者を受け入れる地域の最大の砦として役割を担ってきました。これに伴い、院内での感染防止･安全対策に万全を期す必要があり、来院する皆さまには、体調のチェック、マスクの着用、ご家族の方の面会の時間見直しなどでもご協力をお願

東京医療センターだよりは
QRコードからもご覧になれます

いいたしました。幸い皆さまからご協力を頂き、大きな問題なく、診療を継続することができました。改めまして御礼申し上げます。まだコロナ感染は持続していますので、患者さん・ご家族の方と地域の医療を守るために、なにとぞ引き続きのご理解をお願い申し上げます。

そのような状況ではありましたが、昨年も当院の本来果たすべき高度・急性期医療の充実を図りました。

特に、力を入れているがん診療では、高齢の患者さんや合併症をお持ちの患者さんに、総合病院として他分野の専門家と力を合わせて診療する体制を維持向上させてまいりました。11月には新型のロボット支援手術装置（da Vinci）を追加導入し、前立腺がん･腎癌･膀胱癌、婦人科領域の腫瘍、大腸がん等で身体への負担が少ない低侵襲手術を充実させました。また、内視鏡センターでのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）など高度な技術を要する内視鏡手術を行っています。2020年にオープンした「がん治療センター」において、快適かつ安全な環境での外来化学療法を拡充するなど本格的に行っています。また、がんの専門医を中心に関連各科が連携し、ゲノム医療をはじめとする最先端のがん診断・手術・薬物療法・放射線治療を行っています。緩和ケアセンター、がん看護外来、外来がん薬物療法に加え、専門看護師や専門薬剤師による診療サポートとソーシャルワーカーや看護師による日常や就労に関するがん相談も開始しています。このように、心臓、腎臓、肝臓などの機能低下、精神・神経疾患、感染症など多様な併存疾患をもつがん患者さんや高齢の患者さんの治療に万全な対応を期しています。

さらに、整形外科領域では、最新のナビゲーションシステムを利用した正確で侵襲の少ない人工関節手術や、再生医療を活用した変形性関節症の治療など最新の高度医療に対応できる体制を整備しました。心臓血管・不整脈センターでは、循環器内科及び心臓血管外科が協働して虚血性心疾患、心臓・血管外科手術に加え、不整脈に対するアブレーション治療も多くの症例を治療しています。出産については、より良い環境での出産を目指して、特別食の開始やシャワールームの改装など安心快適な環境も整備しています。

新型コロナ感染症が続く中ではありますが、高度・急性期病院として引き続き地域の皆さまから信頼していただける病院となるよう努力してまいりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介 ～リウマチ膠原病内科～

リウマチ膠原病内科科長　**鈴木　勝也**

当科は1980年に専門内科の一つとして開設されて以来、東京都区西南部地域の基幹施設として、リウマチ性疾患、膠原病、希少免疫炎症疾患を対象とした診療サービスを提供しています。2022年度は外来通院患者2,000名、入院患者149名に医療提供を行いました。特に関節リウマチや脊椎関節炎、全身性エリテマトーデス、血管炎等を対象とした生物学的製剤に代表される免疫分子標的薬による治療実績が豊富であることを特徴としています。地域の診療所や院内各科から紹介を頂く未診断例が多く、早期の的確な診断により、臓器障害を進展させない治療へとしっかりと繋げています。

所属医師は、科長、医員、フェロー医師各１名、専修医３名（１名は連携施設研修中）、非常勤医師等５名の合計11名（うち日本リウマチ学会リウマチ指導医７名・専門医８名､2023年10月現在）で、ローテーター専修医、初期研修医、各科医師、薬剤師、看護師および多彩な専門性を有する事務職員との多職種連携により、専門医療の提供に努めています。

当科が対象とする疾患は全身に症状が出現することもしばしばあり、内科全般および関連各科の幅広い経験と知識を必要とします。豊富な経験と最新の医学的知見に基づき、個々の病状や希望に沿った、質の高い、安心安全の診療サービスの提供を心がけています。さらに、患者さんがこの地域において適時に適切な医療

リウマチ･膠原病は難解な難病？
～多職種連携により正しい情報を分かりやすく～

多職種専門家　リウマチ･膠原病内科医　患者　家族

にアクセスできるように、各種医療施設との円滑な連携関係の構築を目指しています。リウマチ・膠原病というと難解な難病？と思われるかもしれませんが、多職種連携により正しい情報を分かりやすく伝えますので、どうぞ安心して受診していただくようお願いを申し上げます。

当院の行事食について

栄養管理室　管理栄養士　**市村　法子**

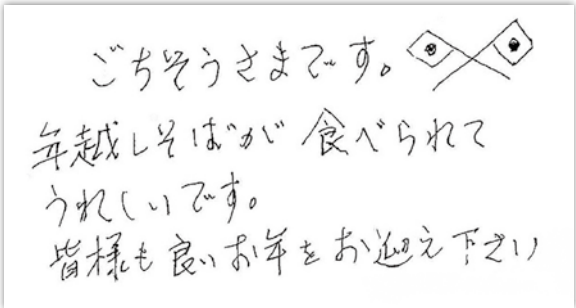
当院では、入院中であっても四季折々の季節を感じて頂けるよう、行事にまつわる内容の行事食を提供しています。一般食を中心とし、治療食を喫食中の患者様であっても、食事が楽しみとなるような工夫を凝らした献立を作成しています。

提供している食事の一部をご紹介致します。春のひな祭りでは、具材を彩り豊かに盛り付けたちらし寿司を提供し、夏の七夕では汁物の具材にそうめんと輪切りのオクラを使用して流れ星の様に見立てた料理を取り入れています。秋の秋分の日には、デザートにミニおはぎと栗ムースの２種類を食種に合わせて用意しています。冬の冬至には、縁起のよい「ん」がつく食材を食べる風習があるため、献立に南瓜（なんきん）を取り入れることで入院中の患者様が１日でも早くご快復に向かえるよう食事に願いを込めて作成しています。クリスマスには骨付きローストチキンやクリスマスケーキなど、日々の病院食との違いを演出できるように心がけています。

日本の伝統行事の他にも、バレンタインも行事食として取り上げ、チョコレートを使用したデザートを提供しています。糖尿病の治療中の方へは、血糖値に配慮し、糖質オフのチョコレートを献立に取り入れています。患者様一人一人に適正な内容の食事提供をすることを目指し、病院での食事を楽しんで頂きながらも退院後の食事療法を継続して頂く際の参考になるよう工夫しています。

行事食の配膳の際には、カードを添えて提供しています。内容は、各行事に関連する華やかでかわいらしいイラストが多いですが、行事によっては献立に使用している食材にまつわる情報を記載しています。

行事食を提供した患者様からは、「食事がとても楽しみでした」・「いつもと違った食事の内容でリフレッシュになりました」・「年越しそばが食べられてうれしいです」等とメッセージを頂けることも多くあり、職員一同励みとなっています。これからも、食事の提供を通して患者様一人一人が治療へ向かうための支えとなれるよう、様々な工夫を込めた行事食を提供してまいります。



～クリスマス（一般食）～

～クリスマス（特別個室）～

～秋分の日（一般有料個室）～

～ひな祭り（特別個室）～

みんなが知りたい病気シリーズ　～クモ膜下出血～

脳神経外科科長　林　拓郎

【クモ膜下出血とは】

脳の血管に障害が起こる病気を総称して脳卒中といいます。脳卒中のなかには脳血管がつまる脳梗塞（昔の脳軟化）と血管が破れて脳内に出血する脳出血（昔の脳溢血）、そして脳を覆っているクモ膜と脳（正確には脳を直接覆っている軟膜）の間の隙間に出血するクモ膜下出血があります。

【原因】

原因の多くは脳の太い動脈（といっても１㎝未満）の分かれ道に風船状の膨らみ=瘤ができ、これが破裂することで発症します。また、膨らみではなく、血管の壁が裂けてできる解離性動脈瘤、感染性心内膜炎に合併しやすい細菌性動脈瘤などがあり、先天性、動脈硬化性、感染性など原因はさまざまですが、動脈瘤破裂によるものが８割程度です。

【どんな人が破裂する?】

統計的には年間15人/10万人程度の発症率とされていますが､他国と異なり日本では増えているそうです。女性、多発性（２つ以上ある）、高血圧、喫煙などが破裂に関わる因子です。大きさとしては、５㎜以上で年間1.2%ですが、５㎜未満では0.5%なので、脳ドック等で見つかる小型動脈瘤の多くは破裂しにくいものと考えられるかもしれません。稀に眼瞼下垂で発症する人もいます。

【破裂すると】

これまで経験したことないような、バットで殴られたような､と表現されるような雷鳴頭痛が症状です(オタワルールが有用です、表１)。通常は手足の麻痺は起こりません（まれに脳内出血になる場合には起こります)。当院は三次救命センターですので、突然の意識障害や心肺停止で搬送される患者さんも少なくありませんが、クモ膜下出血では３割程度は即死してしまうと報告されています。

表1

クモ膜下出血のオタワルール（Ottawa SAH rule）
（1）40歳以上
（2）頚部痛や項部硬直
（3）意識消失
（4）労作時に発症
（5）雷鳴頭痛
（6）頚部屈曲制限
15歳以上の重篤な頭痛患者で、6項目のいずれかに当てはまる場合、クモ膜下出血が疑わしい。

（Perry J, et. al. Stroke. 2020 Feb;51(2):424-430.）

【治療は】

クモ膜下出血は一時的に出血が止まっています。しかし、また出血を起こすと死亡率がさらに高くなるので、まずは再出血を防ぐために手術を行います。治療法には開頭して動脈瘤頸部（根本）を遮断するクリッピング術（写真１）とカテーテルで瘤内にコイル（写真２）を詰める脳血管内手術があります（表２)。脳血管内手術を“切らない”手術と称して脳血管内治療を夢の治療のように報道されることがあります。しかしながら、当院では年齢、患者さんの状態、動脈瘤の大きさ、場所、形、ご希望などで手術法を選択しております。クリッピング手術は頭に傷が残りますが（数年すると見た目では分からなくなります)、脳血管内治療では足の付け根（鼠径部）や肘の内側（肘窩）に数ミリの穿刺のみです。一方、脳血管内治療ではしばらく血が固まりにくくする抗血小板剤を内服する必要があるので、すぐに別の手術（がんなど）を予定されている患者さんには不向きです。

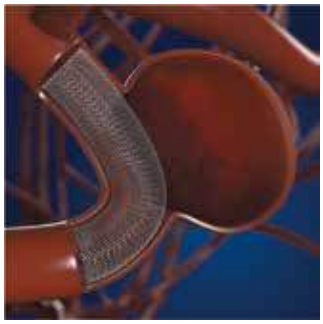
▲写真1
開頭手術に用いるクリップ
（B Braun社より）

写真2▶
脳血管内手術でのコイルのイメージ
（メドトロニック社HPより）

表2

【最後に】

脳動脈瘤が破裂することは稀ですが、破裂すると重篤な状態になります。破裂する前に治療することも重要ですが、この治療でも数%の合併症が起こりえます。どちらもリスクがありますので、当院では患者さんと十分に話し合ってから治療を決定します。フローダイバーター（網目状の管、写真３）を血管内に置くだけという新しい脳血管内治療法も当院では導入しておりますので、脳動脈瘤と診断された患者さんは是非ご相談ください（無理矢理の手術はしません)。



▲写真3
フローダイバーター治療のイメージ
（メドトロニック社HPより）

院内災害訓練について

庶務班長　上後　剛範

院内災害訓練を10月12日（木）午後に実施しました。

今回の訓練は、昨年同様「大規模災害時に係る院内組織体制の機能と、BCP実効性に関する検証を行うとともに、関係機関との相互協力の円滑化を図る」ことを目的として行いました。

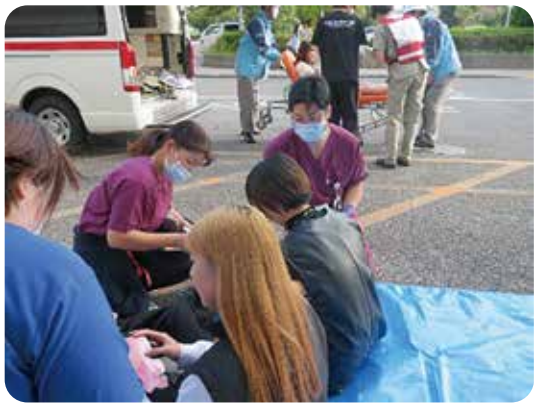
訓練参加機関として、目黒区医師会、目黒区薬剤師会、目黒区健康推進課、碑文谷警察署、目黒消防署、東京医療保健大学、関東信越グループ、DMAT隊として都立広尾病院DMAT、NHO埼玉病院DMAT、NHO災害医療センターDMAT、NHO横浜医療センターDMAT、模擬患者の指導役として国士舘大学、日本体育大学の学生さんなど多数の機関にご協力いただきました。

訓練当日は13：30に目黒区で震度６強の地震が発生したと想定し、昨年度も活用したICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を使用して、職員の安否確認や院内の被害状況の情報伝達訓練をしたのち、院内の災害レベルを3ｂと決定しました。その後、速やかに新設部門（黒･赤･赤待機･黄・緑・トリアージ・家族対応エリア等）の立ち上げを行い、各々活動を開始しました。

緑エリアでは、昨年９月に目黒区より貸与された緊急医療救護所のテントを第二駐車場に設営し、トリアージエリアから搬送された軽症患者を診療したのち、目黒区医師会から派遣された医師に引き継ぐという訓練を行うことで、医師会および薬剤師会の先生方との連携を図りました。黒エリアでは、碑文谷警察の方々より検死までのフローや実災害時の活動内容をレクチャーして頂きました。

訓練終了後の16：00からは各部門のリーダー、目黒区健康推進課、外部機関のDMAT隊を集めて振り返りを行い、来年度に向けての改善点を話し合いました。特に外部機関のDMAT隊からは、災害対策本部のあり方や患者さんを災害協力病院へ依頼するフローの整備の必要性など非常に的確なアドバイスを頂き、とても有意義な話し合いとなりました。

いつ起こるかわからない災害に向けて、ひとりでも多くの命を救えるよう今後も当院は訓練を実施していきます。



トリアージエリア

黒エリア

緑エリア

人間ドック（健診センター）の紹介

健診センター長　**門松　賢**

健診センターの目的は、疾患の予防及び早期発見を行うことのより患者様の健康の増進に寄与することであります。ぜひ、皆様の健康管理にお役立てください。万一病気が認められた場合には、当院の該当診療科に紹介させて頂き、治療を受けていただくことができます。

健診センターの診療は祝祭日を除く火曜日から金曜日まで行っております。検査は内容により当院の専門医が担当致します。

コースについては、６つのコースがあります。

１）半日コース、２）ゆったり１泊２日コース、３）動脈硬化ドック、４）シルバーコース、５）脳ドック、６）PET-CT検査

半日コースの検査内容は下図の通りです。また、肺がん検診、脳ドック、乳房検診、婦人科検診、上部消化管内視鏡検査などのオプションの追加も可能です。

半日コースが一般的なコースであり、コロナ禍での減少はございましたが、昨年度はおよそ年間600名程度の方にご利用いただいております。

また、2022年９月からゆったり１泊２日コースが新しく始まりました。

ゆったり１泊２日コースは、半日ドックに骨密度検査と脈波検査（血管の硬さを調べる検査）が加わっております（オプションの選択も可能です）。今まで半日ドックでは、いくつかのオプションをお選びいただいた場合には、かなり慌ただしくなってしまうことがありました。９階の特別個室にお泊りいただき、日頃の疲れを癒していただきながら、ゆっくりと人間ドックを受けていただくことができます。

各コースの詳細はホームページまたは健診センターのパンフレットをご覧いただくか健診センターにお問い合わせください。

予約受付方法については検査希望月の３か月前より予約を健診センター窓口または電話にて承ります。

（例）10月1日に受診される方は、７月１日より受付しております。

○電話での予約は平日の火曜日から金曜日（祝祭日を除く）13：00～16：00まで受付けしております。

○窓口での予約は手術検査棟３階健診センター受付にて承ります。

平日の火曜日から金曜日（祝祭日を除く）9：00～16：00まで受付けしております。

【電話番号：03（3411）0111（内線：5120）
健診センター受付】

半日コースの内容

身体測定	身長、体重、BMI、肥満度、腹囲
眼科検査	視力、眼圧、眼底
聴力検査	オージオメーター（6音域）
呼吸器系検査	呼吸機能検査（コロナ禍で現在は中止しております） 胸部Ｘ線検査　※肺がん健診コースを選択された方は胸部CTとなります
尿検査	尿比重、尿PH、尿蛋白、尿糖、尿ケトン体、尿潜血、ウロビリノーゲン、ビリルビン、白血球反応、尿沈渣
便検査	便潜血反応
血液検査	血沈、白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、MCV、MCH、MCHC、血小板数、白血球百分率、CRP
肝膵機能検査	総蛋白、アルブミン、A/G、ALP、AST（GOT）、ALT（GPT）、LDH、Ch-E、γ-GTP、総ビルビリン、血清アミラーゼ
代謝検査	総コレストロール、HDL-C、LDL-C、中性脂肪、尿酸
糖尿病系検査	空腹時血糖、HbA1c
腎機能検査	尿素窒素、クレアチニン
電解質検査	ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム
腫瘍マーカー	PSA（男性のみ）、CA-125（女性のみ）
感染症検査	HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体、RPR
循環器系検査	血圧、心電図
上部消化管検査	胃透視（バリウムを飲むもの） ※上部消化管内視鏡コースを選択された方は、上部消化管内視鏡となります
腹部超音波検査	腹部超音波検査
栄養指導	栄養診断
内科診察	内科診察

看護師の特定行為について

特定行為研修修了者　仁平　知保・前田　有紀

「特定行為に係る看護師の研修制度」は保健師助産師看護師法に位置付けられた研修制度で2015年10月から開始されました。特定行為研修を修了した看護師は、手順書に従い特定行為を実施することができます。

特定行為は21区分あります。当院は、2020年度より７区分を対象とした「外科系基本領域」の指定研修機関となりました。該当する区分としては、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連、創傷管理関連、創部ドレーン管理関連、動脈血ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連、術後疼痛管理関連の７区分です。

特定行為研修では、臨床病態生理学や臨床薬理学、医療安全学の他、臨床推論（医師が診断や治療を決定するための思考プロセス）などの学習と、臨地実習を１年間かけて行います。臨床推論を学ぶことにより、意図的に患者の情報収集を行う思考が身に付き、より病態の把握ができるようになります。そして追加で必要と思われる検査や処置の検討につながります。

入院患者と接する時間が多いのは看護師であり、患者の話を聞き、変化に気づきやすいのも看護師です。その看護師の知識、判断力が高まることにより、患者の異常の早期発見につながり、医師への報告の方法も充実したものとなり、早期対応につながります。

また、特定行為看護師がいることで、手順書に示された病状の範囲内であれば医師の指示を待たずにタイムリーな処置が可能となり、中心静脈カテーテル抜去、創部ドレーンの抜去、動脈血ガス採血などを実施することで、患者の負担を軽減することにもつながります。

2022年度は５名の看護師が研修を修了し、これまでの修了者を含めると10名になりました。循環器病棟、呼吸器科病棟、外科病棟、総合内科病棟、手術室などそれぞれの所属部署で活動しております。また、研修修了後も定期的にフォローアップ研修を行っており、知識、技術の維持に努めています。

今後も活動の場を増やせるよう、自身のスキルアップに加え、後輩を育成し、看護の質の向上を目指していきます。

当院でのお産について

５階Ａ病棟看護師長　許　明奈

【安心安全なお産を支える体制】

５階Ａ病棟には、産婦人科医師（レジデント含む）10名、助産師21名、看護師14名が配属されています。昨年度の分娩件数は462件であり、そのうち和痛分娩は40件実施しました。出産に立ち会う医療スタッフ全員がNCPR（新生児蘇生）の資格を持っていることや、24時間産婦人科医と小児科医が院内に待機しているため、安心安全なお産体制が整っています。また、希望される方は夫の立ち会い分娩が可能となっており、新しい家族の誕生を二人で迎えることができます。

【和痛分娩】

2021年４月より地域からニーズの高い和痛分娩を、麻酔科医師の協力のもと再開させました。

和痛分娩とは、麻酔を使用して陣痛の痛みを和らげながら出産をすることです。痛みに弱い方や、長い陣痛が続くことでの疲労を抑えたい方などが選択されています。和痛分娩を経験された産婦さんからは「無痛分娩のように、痛みを全て無くすよりも、多少の痛みを伴いながらもお産する方が、いきむタイミングがわかり、とてもやりやすかったです」と、大変高評価をいただいております。現在、和痛分娩は初産・経産婦関係なく、週に４名の枠の予約制で行っておりますので、ご興味のある方はお早めに主治医へご相談下さい。

【育児支援】

当病棟には、NICUが隣接しており、小児科医と協力し、出生直後から赤ちゃんへのサポートを行っております。

産後の育児支援の一貫として「育児支援入院」をおこなっております。NICUへ赤ちゃんが入院していて同室出来なかったお母さん、育児技術に不安があるお母さん、育児指導を希望するお父さんを対象に行っています。１泊２日もしくは、２泊３日で両親と赤ちゃんが同室して、おむつ交換や沐浴、授乳などの指導を受けられるよう取り組んでいます。これは、産後の不安を少しでも軽くしてから退院できるようするためのものであり、赤ちゃんの生活リズムをつかみながら、お父さんも直接実践し、助産師の指導を受けられるので、好評を頂いている取り組みの一つです。

【地域との連携】

当病棟は産科外来、助産師外来、産後２週間健診、母親・両親学級も担当しており、産前～産後地域で生活を始めた後も継続した看護を提供しています。ソーシャルワーカー、メンタルケア科医師、小児科医師および地域の保健師等と連携を密に取り、地域で安心して妊娠～子育てができるようチーム医療を提供しています。

患者図書室からのお知らせ

～企画展示のご報告～

10 月 10 日から 12 月 22 日まで、1 階外来ホール・がん治療センターの待合・患者図書室にて開催しておりました第 3 回企画展示「治療と仕事の両立」が終了いたしました。

当院の相談支援センター協賛のもと、また目黒区内の目黒区立八雲図書館・東京医療保健大学附属東が丘図書館・東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室と連携してテーマの決定や図書リストの作成、関連する資料の借り受けなどを行いました。

参加型企画として今年もウィッシュツリーを実施し、1 階外来ホールにはたくさんの願い事の実ったとても素敵な木ができました。ご来訪、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

今後もアンケートなどで頂いた皆様のお声を大切にして、多くの方々に利用しやすい場としての患者図書室として努力してまいります。

外来通院・お付き添いの折には、3 階 B フロアがん治療センターにあります患者図書室へぜひお越しください。入院中の方へは図書の貸出も行っております。

皆様からのご意見<アンケートより>

- 身近にも治療をしながら仕事をしている人がいることに気づかされた。
- いろいろ、参考になります。
- 頑張って下さい！
- 3F では目にしない患者さんも多いので会計・入口そばのこの場所はよいと思いました。以前短歌企画でお世話になりました。
- 病院は待ち時間が長いので、様々な展示があるととても勉強になります。無理のない範囲で継続できたらいいですね　楽しみにしています。
- コンサートなどの企画は病いで外出しづらい私にはとてもなぐさめになりましたし、動ける入院患者さんにとっても大変気分転換になるようでしたので、是非続けて欲しいです
- こういう地道な活動は素晴らしいと感じました。
- 主人が入院しました。もうなくなりましたが（3,4 年前）中村憲先生に大変お世話になりました。

（12 月 1 日現在）

総合的満足度	（人数）
大変満足	3
満足	20
普通	6
不満	0
大変不満	0

今後の開催希望	（人数）
希望する	24
やや希望する	4
どちらでもない	0
あまり希望しない	0
希望しない	0

患者図書室ホームページから展示のご報告、資料なども見られます。

地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長　鄭　東孝　地域医療連携係長　清水　裕子

平素より東京医療センターの診療に対し、ご支援並びにご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が流行して以来、開催を控えておりました「地域医療連携の会」を３年ぶりに開催いたしましたので、ご報告させていただきます。

【2023年度　東京医療センター地域医療連携の会】

■日程　2023年10月５日（木）

■場所　銀座アスター三軒茶屋賓館

■参加者　205名（院外136名、院内69名）

■講演

・「東京医療センター人工関節・再生医療センターの取り組み」
　整形外科医長・人工関節・再生医療センター長　藤田 貴也

・「リウマチ膠原病内科の取り組み」
　リウマチ膠原病内科科長　鈴木　勝也

・「地域医療連携室の取り組み」
　医療総合支援部長/地域医療連携室長/総合内科科長　鄭　東孝

地域から多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。対面で意見交換をさせていただき、有意義な会になりました。今後も顔が見える連携をしていきたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。

また、今年度２回目の地域医療カンファレンスを対面で実施しましたので、ご報告させていただきます。

【第148回　地域医療カンファレンス】

■日程　2023年９月21日（木）

■演題　『症例から学ぶ耳鼻科関連診療ガイドライン』

・「症例から学ぶ顔面神経麻痺診療ガイドライン」耳鼻咽喉科医師　都築　伸佳

・「症例から学ぶめまい診療ガイドライン」耳鼻咽喉科医師　山野邉　義晴

■参加者　11名

当院の耳鼻科医師から、顔面神経麻痺とめまいの診療ガイドラインをもとに、実際の症例から他疾患との鑑別診断等についてお話させていただきました。顔面神経麻痺とめまいの診断でお困りの症例がございましたらご紹介いただければ幸いです。

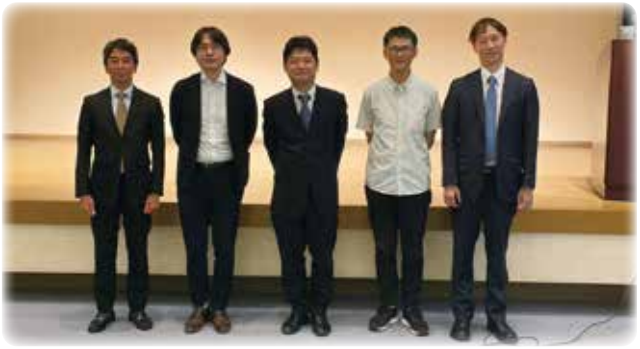
第127回 日本消化器病学会関東支部市民公開講座 開催について

消化器内科科長　**福原　誠一郎**

2023年９月16日、日本消化器病学会関東支部の主催にて、第127回市民公開講座を当院３階大会議室で開催いたしました。この市民公開講座は、日本消化器病学会が社会還元事業として、全国の各支部が年５回程度を目処に開催しているものであります。今回、本年度開催の１つとして、小職が世話人を仰せつかりました。当院で消化器病学会関東支部主催の市民公開講座が開催されるのは、初めてのことでありました。

市民公開講座のテーマの決定は、世話人である小職が一任されており、大変に悩んだ上で、「消化器腫瘍に対する集学的治療」と命名しました。当院は、国より「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、多くの部門が協力しながら、専門的ながん診療、あるいは地域連携を図っております。消化器領域は、良性疾患もあれば悪性疾患もあり、急性期の病気もあれば慢性的な病気もあります。さらには食道・胃・小腸・大腸といった消化管や肝臓、胆道、膵臓と幅広い領域を担うため、検査から治療も多岐に渡り、またこの治療も日進月歩です。このような背景を鑑み、消化器腫瘍を主題とし、当院の消化器内科、一般消化器外科、臨床腫瘍科、放射線科、また慶應義塾大学医学部内視鏡センターから非常勤で診療しております医師の計5名で講演を企画しました。

振り返りますと、市民公開講座としてはやや硬いテーマではなかったと反省をしましたが、それぞれの専門の立場から中身の詰まった講演を拝聴でき、また参加いただいた皆様からも好評をいただき、充実した時間となりました。日常診療では、どうしても時間が限られることが多いですが、このように病気に関する診断や治療を中心とした見識を深めていただく機会を設けられることは、医療を提供する医師として、大変有意義なものと感じました。また参加者の皆様からは、今後も開催を希望されるお声もございました。今回は医師のみが登壇をしましたが、日々の診療に携わる多方面の職種が講演を担う企画も興味深いものではないかと振り返りました。皆様にいただいたご意見を活かし、同様の講座が開催できることを目標としたいと考えております。



フォトコーナー

NST専門療法士の
試験会場（京都）にて

第77回国立病院総合医学会にて
（ポスター・原爆ドーム・広島城）

登録医紹介

日本消化器内視鏡学会指導施設
医療法人社団　For the patients
二子玉川ライズ ひろ内科クリニック

院長
水口 泰宏

院長あいさつ

当クリニックは、内科外来診療、胃・大腸内視鏡検査、在宅医療を中心に行っています。

外来診療は、豊富な経験を活かして患者様の立場にたった診療を心掛けています。
胃・大腸内視鏡検査は、最新の機器を用い内視鏡専門医による、苦痛の少ない検査、明確な診断、治療を行います。在宅医療は、住み慣れたご自宅や施設で安心して療養生活を送れるように、サポートします。

地域の皆様の信頼を得られるようスタッフの力を合わせて、「安心」をモットーに温かく、質の高い診療を行っていきたいと思います。
どうぞ宜しくお願いします。

診療科・医院案内

消化器内科・内科・循環器内科・糖尿病内科・在宅医療

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:45	●	●	●	●	●	●	－
15:00～18:30	●	●	●	●	●	－	－

休診日：土曜午後・日曜・祝日

〒158-0094
東京都世田谷区玉川1-15-6　2F
☎　03-5797-9861

自由が丘 脳神経 頭痛めまいクリニック

院長
岩間　淳一

院長あいさつ

東京医療センターの先生方には医療連携にて大変お世話になっております。

当院は患者さまを一つのクリニックでトータルに診療したいという思いから2019年10月に自由が丘に開院致しました。
脳神経外科、循環器内科、糖尿病内科などの診療科枠にとらわれず、まずは受診していただき、診察に基づき必要な検査、治療を行います。
病気の治療、特に脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などの脳卒中において一番大切なのは予防です。

定期的に受診していただくことで、初期段階で診断しフォローアップさせていただけたらと思います。
より専門的医療が必要と判断した場合は、これまで培ってきたネットワークを駆使して信頼できる最善の専門医師を紹介させていただき、患者さまにとってベストな治療を受けられるようお手伝いします。
患者さま、そのご家族も含めて皆さんホームドクターとなり気軽に相談に来ていただけるクリニックを目指し、今後も努力していく所存です。どうぞよろしくお願い致します。

診療科・医院案内

脳神経外科・脳神経内科・循環器内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	－
14:30～18:30	●	●	●	●	●	－	－

休診日：土曜午後・日曜・祝日

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘2-24-15
コリーヌ自由が丘EST 2F
☎　03-3723-8008